



伝染性膿痂疹(とびひ)



<伝染性膿痂疹(とびひ)とは>

すり傷や虫さされ, あせも, 湿疹などに化膿菌が入りこんで, 水ぶくれができます。かきこわした手で他の場所をかくと, そこにまた水ぶくれが「飛び火」します。夏に多い病気です。



直径数ミリ〜数センチの水ぶくれが四肢, 軀幹にできる, かゆい

原因菌は 90%がブドウ球菌, 10%が連鎖球菌です。



<治療>

- (1)飲みぐすり: 抗生物質を飲んで, 体の中から化膿菌をやっつけます。
- (2)塗りぐすり: i. 抗生物質の入った軟膏を塗る. ii. 乾燥剤の軟膏をリント布に塗って貼付する. i.-ii を最低 1 日 3 回 (ii. は軽い場合やリント布を貼れない場所には不要)。

抗生物質は飲み薬, 塗り薬ともにすっかり治るまできちんと続けて下さい。少しでも細菌が残っていると, すぐにぶり返します。



<家庭で気をつけること>

- (1)お風呂: とびひの範囲が広い場合には入浴を禁止します。ひどくない場合には石鹸を使って体のよごれをよく洗い, シャワーで流して下さい。ゴシゴシするのは禁物です。タオルの共用はやめましょう。浴槽に入ると細菌がお湯の中に飛び散るので, シャワーだけか, 浴槽に入る場合には家族のなかで最後に入って下さい。
- (2)手を洗う: 爪は短く切り, 石けんで何回も手を洗いましょう。
- (3)プール: とびひが乾いて完全に治癒するまでは入ってはいけません。
- (4)保育所: とびひの程度にもよりますが, 1-2 日間休んでもらうことがあります。



<こんなときは早めに再来してください>

- (1)熱が出たとき。
- (2)2 日以上たっても水ぶくれがふえるとき。
- (3)顔や体が赤く腫れてきたとき。

(注意) 最近抗生物質の効かない耐性菌が増えています。処方された抗生物質を服用しても悪化する場合には抗生物質を変更します。